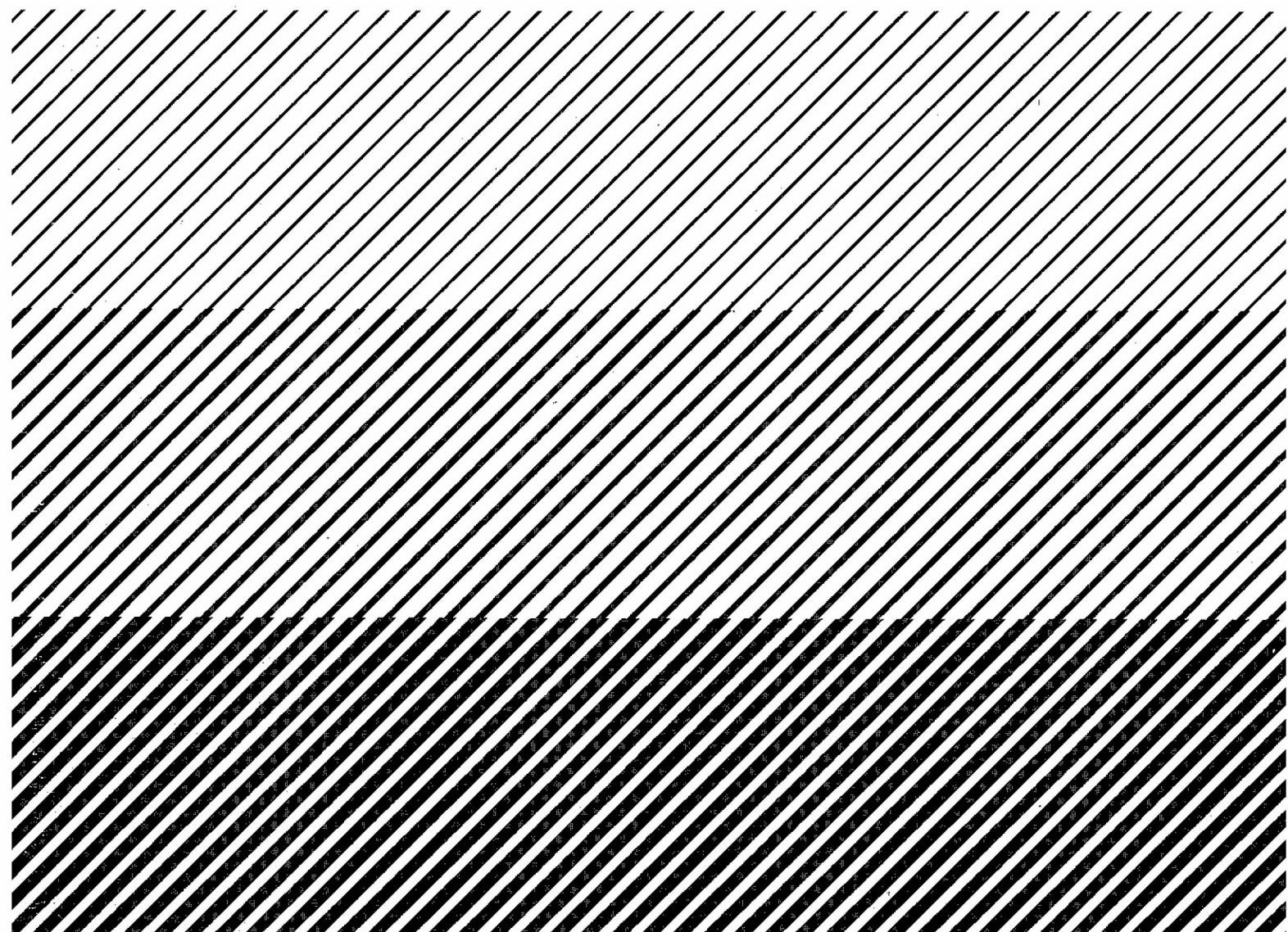
KAWAI

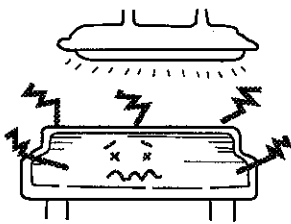
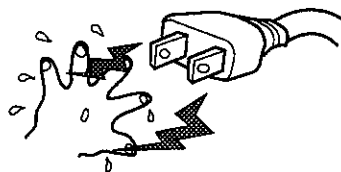
DIGITAL PIANO
SE320

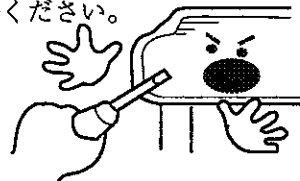
取扱説明書

このたびはカワイ電子ピアノをお求めいただきましてありがとうございました。

カワイ電子ピアノは、最新のエレクトロニクス技術と、カワイが長年に渡って培った楽器作りのノウハウから生まれた画期的な鍵盤楽器です。
木製鍵盤使用による自然なピアノタッチの追究、ピアノに迫る幅広いダイナミックレンジ、鍵盤を弾く強さにより、音色、音量を幅広く変化させるタッチ・レスポンス機能、美しい残響を生みだすリバーブ効果、さらに伝統的ないくつかの調律法による音律セッティングまで装備し、幅広い音楽ジャンルにおいて、本格的な演奏を楽しむことができます。
また、電子楽器の統一規格であるＭＩＤＩ機能も装備しており、ＭＩＤＩ端子の付いた他の楽器とのアンサンブル等、バラエティーに富んだ演奏にも対応できるようになっています。
本機の演奏にあたりましては、この取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになった後もこの取扱説明書を保管し、わからないことが出てきたときなどにご利用いただければ幸いです。

ご使用上の注意

● 電源について
電源は必ず家庭用100Vのコンセントをご使用ください。誤って100V以上の電源を使用しますと大変危険ですので、よくお確かめください。

● 雑音について
モーターやネオンサイン、蛍光燈などが近くにありますと雑音の原因となりますので、本体の設置位置を変えてください。

● 電源プラグ、コードの取り扱い
電源プラグをぬれた手で触ったりすると感電する恐れがありますので、ご注意ください。
また、踏みつけたり、足でひっかけたりすると断線やショートの原因となりますのでご注意ください。

● スライド式キーカバーの取り扱い
スライド式キーカバーの上に重いものを乗せたり、強い力を加えないでください。
また、スライド式キーカバーの開閉は、両手を添えて静かに行ってください。（キーカバーは上に持ち上げないでください。）

● 故障などの注意
内部を開けて部品を取り外したり、改造したりすることは大変危険ですので絶対にやめてください。故障したと思われたときは、お求めの販売店、もしくはお近くのカワイまでご連絡ください。

● 使用後のご注意
使用された後は、必ず電源を切ってください。電源を入れたままにしておくと思わぬトラブルの原因となります。
また、長時間ご使用にならない場合は、プラグをコンセントから抜いておいてください。

● お手入れのご注意
アルコールやシンナー、ベンジンなどの薬品は絶対に使わないでください。
外装のお手入れは、中性洗剤の入った水を多少含ませた柔らかな布をお使いください。鍵盤のお手入れは、水を含ませた柔らかな布をお使いください。

目　次

1 各部の名称と働き 1

2 演奏してみましょう.........3

1. 基本操作 3
2. トランスポーズ 5
3. タッチ・カーブの選択.................6
4. デモ曲の演奏方法........................7

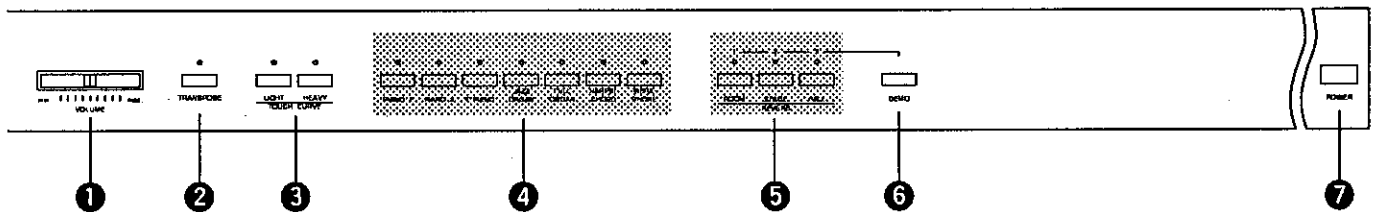
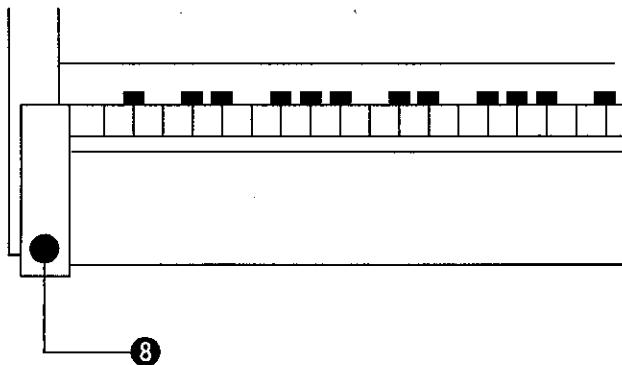
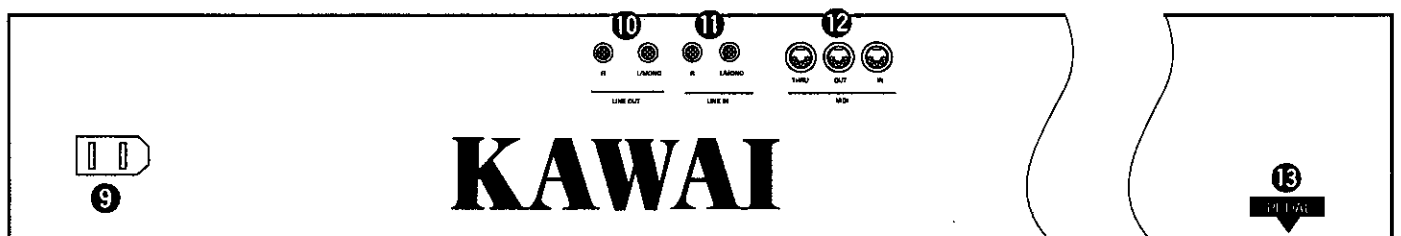
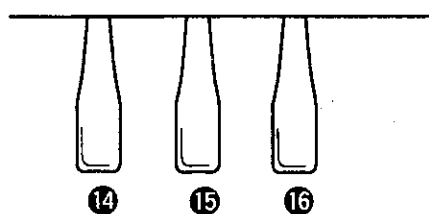
3 その他の機能の使い方 8

1. 設定モード..................................8
2. チューニングの調整 10
3. 音律の設定................................11

4 MIDI機能の使い方 13

1. MIDIの考え方............................13
2. MIDIの使用例............................14
3. 本機のMIDI機能 16
4. MIDI機能の使い方 17

1 各部の名称と働き

● フロントパネル

● 前面（左側）

● リアパネル（背面）

● ペダル（スタンド下部）

❶VOLUME（ボリューム）
内蔵スピーカーやヘッドフォンから出力される音量を調整します。max側にいくほど音量が大きくなり、min側にいくほど音量が小さくなります。

❷TRANSPOSE（トランスポーズ）
トランスポーズ機能を使えば、弾き方を変えずに簡単に移調できます。調のことなる楽器とのアンサンブルや、歌の伴奏をするときなどに便利です。（5ページ参照）

❸TOUCH CURVE SELECT（タッチ・カーブ・セレクト）
タッチ・カーブを選択するボタンです。タッチ・カーブについての詳細は、6ページを参照してください。

❹音色セレクト・ボタン/音色名表示
音色を選択するボタンです。演奏したい曲目などに合わせてボタンを押してください。押されたボタンの赤いランプが点灯します。音色の切り替え方法については、3ページを参照してください。

❺REVERB（リバーブ）
音にリバーブ効果（残響効果）を与え、美しい響きが得られます。

❻DEMO（デモ）
内蔵されている3曲のデモ曲を鳴らすためのボタンです。
デモ曲の演奏方法については、7ページを参照してください。

❼POWER（電源スイッチ）
電源をオン／オフするスイッチです。ご使用後は、必ず電源スイッチを切ってください。

❽ヘッドホン端子
別売のヘッドホン（SH-5、SH-2）等を接続する端子です。

❾AC OUTLET（アウトレット）
AC100Vの出力です。シーケンサーやキーボードなど外部機器の電源として使用できます。
許容電力は300Wです。冷蔵庫、掃除機、電気コタツなどの消費電力の大きな電気器具は絶対に使用しないでください。

❿LINE OUT（ライン出力端子）
本機の音を他の外部機器（アンプ、ステレオ）などで聴いたり、テープ・デッキなどに録音する場合に使用する出力端子です。出力レベルは、本体のボリュームで調節できます。なお、モノラルの信号はL/MONO側から出力します。

⓫LINE IN（ライン入力端子）
他の電子楽器やカセット・デッキなどの出力端子とこの端子を接続すると、本機の内蔵スピーカーからそれぞれの機器の音を出力できます。この場合、本体のボリュームでは音量を調節できませんので、それぞれの機器側で調節してください。
なお、モノラル信号は、L/MONO側に入力してください。

⓬MIDI（ミディ）
MIDI規格に対応している楽器などを接続するための端子です。
MIDIについての詳細は、13ページを参照してください。

⓭PEDAL（ペダル端子表示）
ダンパー・ペダル、ソフト・ペダル、ソステヌート・ペダルのプラグを接続する端子の位置を示します。

⓮ソフト・ペダル
音色がやわらかくなり音量も小さくなります。

⓯ソステヌート・ペダル
鍵盤を押した後、指を離す前にこのペダルを踏むと、その音にだけサスティンがかかります。

⓰ダンパー・ペダル
鍵盤から手を離しても音が余韻をもって消えていくサスティンがかかります。

2

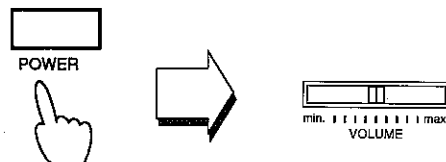
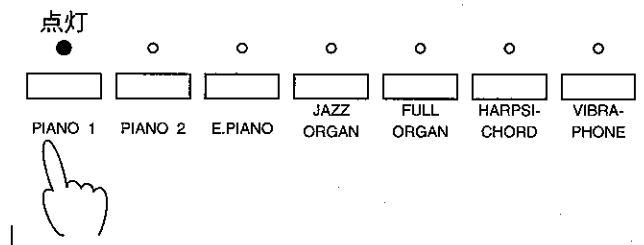
演奏してみましょう

1. 基本操作

ここでは音を出すまでの基本的な手順を説明します。

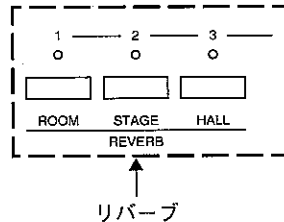
ステップ1 電源プラグをAC100Vのコンセントに差し込みます。

ステップ2 POWER スイッチをオンにします。

ステップ3 VOLUMEレバーを中央付近にセットしてください。

ステップ4 音色を選びましょう。
音色セレクト・ボタンの中から好きな音色をひとつ選んで押してください。押された音色のランプが点灯します。

★電源をオンにした時は、自動的にPIANO1の音が選択されます。

ステップ5 鍵盤を弾いてみましょう。

選んだ音色が出ます。いろいろな音色に切り替えてメロディーを弾いてみましょう。

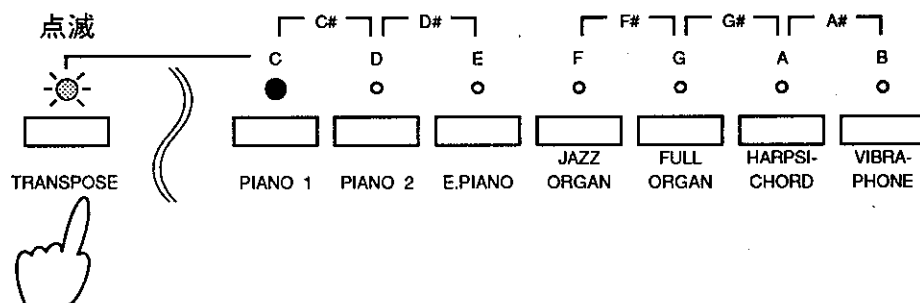
ステップ6 必要に応じてリバーブ効果を加えてみましょう。

リバーブ

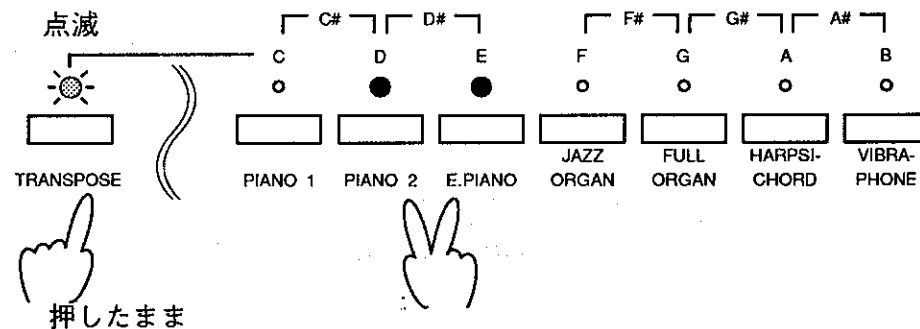
リバーブ：音に残響効果をつけ、深みのある美しい響きが得られます。
リバーブ効果は次の3種類が選択できます。
ROOM ：室内で演奏しているようなリバーブ効果が得られます。
STAGE：ステージで演奏しているようなリバーブ効果が得られます。
HALL ：ホールで演奏しているようなリバーブ効果が得られます。

★音色によっては、これらの効果の加わり方が異なる場合があります。

2. トランスポーズ

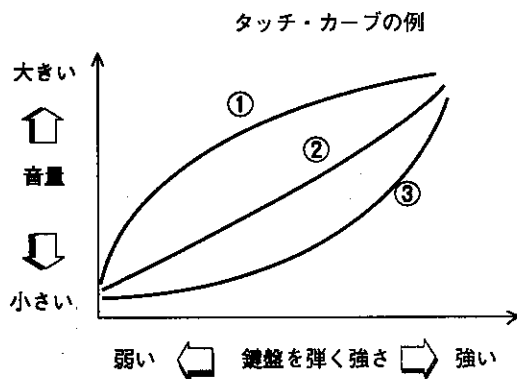
調の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾き方を変えずに簡単に移調できます。また、譜面にシャープやフラットがたくさん付いているときにこの機能を使って簡単なキーで弾くことができます。

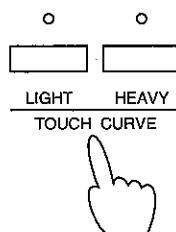
ステップ1　TRANSPOSE ボタンを押しつづけます。
TRANSPOSEのランプが点滅し、現在セットされている調のランプが点灯します。

★電源オン時はハ長調（C）に設定されます。

ステップ2　TRANSPOSE を押したまま変更したい調のボタンを押します。
＃の付いた中間の調に変更したいときは、その調の両わきのボタンを同時に押します。

上の例ではD＃が選択されます。

★TRANSPOSEボタンのランプはハ長調（C）以外のキーにセットされているときに点灯します。

3.　タッチ・カーブの選択

ピアノでは、鍵盤を弾く力をだんだん強くしていくと、音量もだんだん大きくなります。この鍵盤を弾く強さと音量との関係を表わしたものをタッチ・カーブと呼びます。
本機では、３種類のタッチ・カーブを選ぶことができます。

①ライト：　弱いタッチで弾いても大きな音が出ます。指の力が弱い人向きのタッチ・カーブです。
②ノーマル：普通のタッチで音量が変化します。
③ヘビー：　強いタッチで弾くと大きな音が出ます。指の力が強い人や練習向きのタッチ・カーブです。

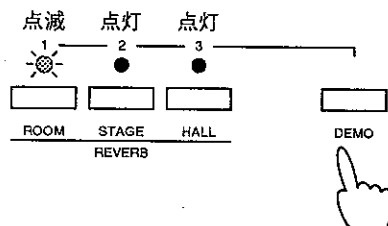
ステップ1　タッチ・カーブ・セレクトの LIGHT または、HEAVY ボタンを押してタッチ・カーブを選びます。

選んだタッチ・カーブのランプが点灯します。
どちらのランプも点灯していないときは、ノーマルが選択されます。

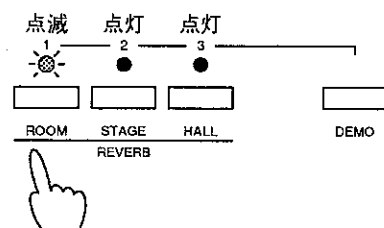
ステップ2　タッチ・カーブをノーマルに戻したいときは、現在選ばれているタッチ・カーブのボタンを再度押して、ランプを消します。

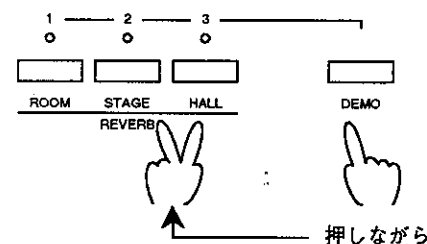
★電源オン時には、タッチ・カーブはノーマルに設定されています。

4. デモ曲の演奏方法

本機には、3つのデモ曲が内蔵されています。次の方法でデモ曲の自動演奏を楽しむことができます。

ステップ1　DEMO ボタンを押します。

内蔵されている3つのデモ曲が繰り返して演奏されます。

ステップ2　ROOM 、STAGE 、HALL の3つのボタンを押して、聴きたい曲（デモ曲1～3）を選ぶことができます。

ステップ3　デモ曲の演奏を止めるには....
もう一度 DEMO ボタンを押すと
デモ曲が止まります。

ステップ4　DEMO ボタンを押しながら聴きたい曲の番号のボタンを押すと、選ばれた曲だけが繰り返して演奏されます。

上の例では、デモ曲2と3が繰り返して演奏されます。
このとき、演奏中のデモ曲のボタンのランプは点滅し、待機中のデモ曲のボタンのランプは点灯します。
点灯または点滅しているボタンを押すと、そのボタンのデモ曲が最初から演奏されます。

★デモ曲演奏中はリバーブの変更はできません。

★デモ曲1はメドレー（短い曲をつなげたもの）になっています。
デモ曲1の演奏中にもう一度 ROOM のボタンを押すと、メドレーの中の次の曲を聴くことができます。

3

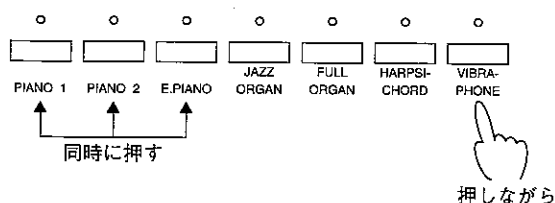
その他の機能の使い方

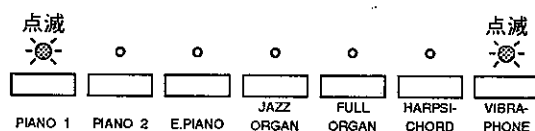
1. 設定モード

「設定モード」とは、チューニング調整、音律の設定、各種MIDI機能の設定を行なうモードのことです。これらの設定は電子ピアノのパネル上のボタンと鍵盤を使って行ないますので、説明をよく読んで、設定方法を理解してから行なってください。

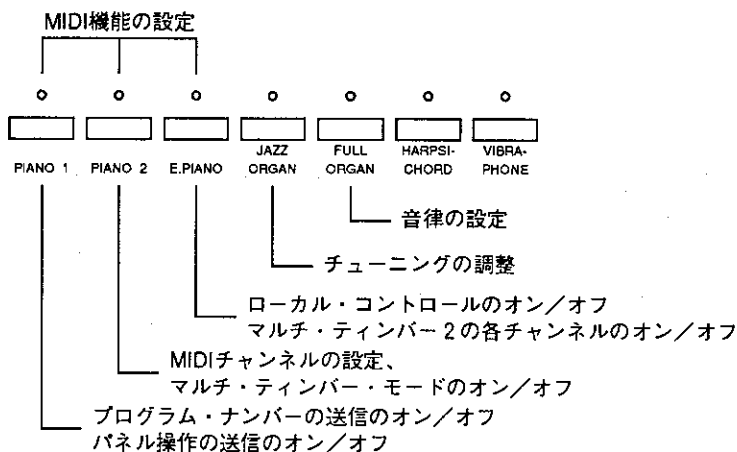
A. 設定モードへの入り方

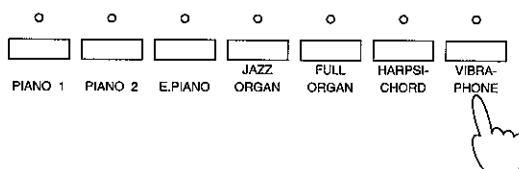
ステップ1

VIBRAPHONE ボタンを押しながら、PIANO1、PIANO2、E. PIANO の3個のボタンを同時に押します。（どの音色セレクトボタンが点灯していてもかまいません。

ステップ2

VIBRAPHONEとPIANO1のランプが点滅し、「設定モード」に入ったことを示します。

★PIANO1のランプの点滅は、後で説明するプログラム・ナンバー送信の設定モードに自動的にセットされたことを示します。
★この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

B. 各設定モードの選び方

音律の設定など、種々の設定モードを選ぶには設定モードに入った後、音色セレクト・ボタンを押します。各設定モードと音色セレクト・ボタンは、次のように対応しています。

C. 設定モードからの抜け出し方

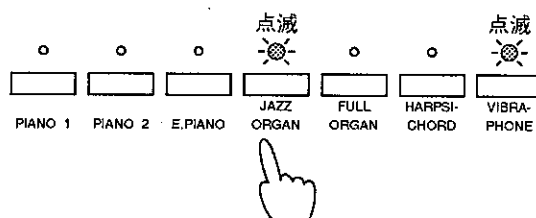
VIBRAPHONE のボタンを再度押します。
ランプの点滅が消え、「設定モード」から出ます。

「設定モード」から出ると、「設定モード」に入る前の状態に戻ります。

★VIBRAPHONEボタンを押さずに他の音色セレクト・ボタンを押せば、引き続き他の設定モードに移ることができます。

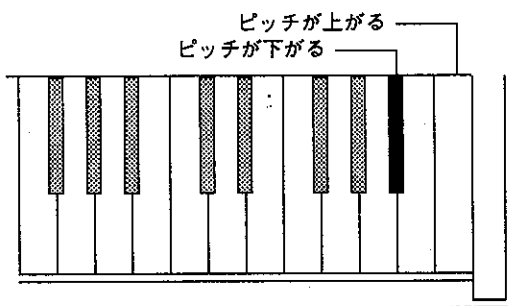
2. チューニングの調整

チューニング調整は、他の楽器とピッチ(音程)を合わせるときに行ないます。

ステップ1　VIBRAPHONE ボタンを押しながら、PIANO1、PIANO2、E. PIANOの3つのボタンを同時に押し、「設定モード」に入ります。（8ページ参照）
VIBRAPHONEとPIANO1のランプが点滅します。

ステップ2　JAZZ ORGAN のボタンを押します。

PIANO1の点滅がJAZZ ORGANの点滅に変わり、チューニングを調整できるモードになりました。

★この状態で鍵盤を弾くと、「設定モード」に入る前に選ばれていた音色が鳴ります。
チューニング調整は、この音色を使って行ないます。音色を変えたいときには、一度「設定モード」から出て（9ページ参照）音色を選びなおしてから、再度ステップ1、ステップ2の操作を行ないます。

ステップ3　チューニングを調整します。
右端の白鍵を押すごとにピッチが少しずつ上がります。また、右端の黒鍵を押すごとにピッチが少しずつ下がります。

★チューニングできる範囲は±50セントです。（100セント=半音）。
1回押すごとに100/64セントずつ、変化します。

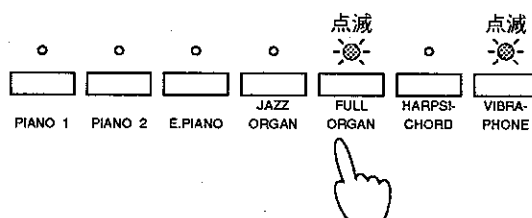
ステップ4　チューニングの調整が終ったら、VIBRAPHONE ボタンを押し、「設定モード」から出ます。（9ページ参照）
引き続き、他の設定モードに移ることもできます。

★電源をオンし直すとチューニングは元に戻ります。

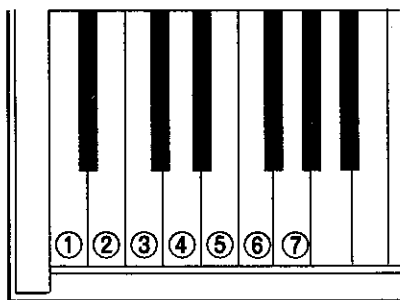
3. 音律の設定

ピアノの調律法として、最も一般的な平均律だけでなく、ルネッサンス、バロック等の時代に用いられた古典音律を簡単に本体にセットすることができます。

ステップ1 VIBRAPHONE ボタンを押しながら、PIANO1、PIANO2、E. PIANO の3つのボタンを同時に押し、「設定モード」に入ります。(8ページ参照)
VIBRAPHONEとPIANO1のランプが点滅します。

ステップ2 FULL ORGAN のボタンを押します。

PIANO 1の点滅がFULL ORGANの点滅に変わり、音律の設定ができるモードになりました。

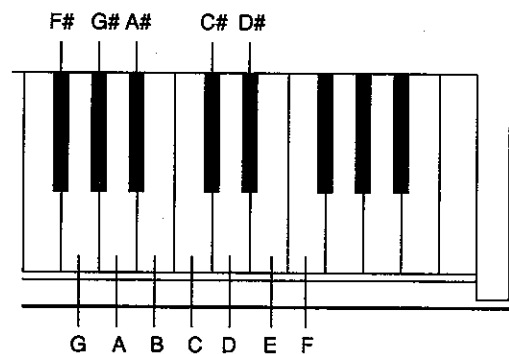
★この状態では、鍵盤を押しても音が出ません。

ステップ3 設定したい音律の鍵盤を押します。
音律の設定は左端から7個の白鍵を使用します。

①平均律(調律曲線を使わない平坦な平均律)
②純正律
③ピタゴラス音律
④中全音律
⑤ヴェルクマイスター第III法
⑥キルンベルガー第III法
⑦平均律(電源オン時のピアノ調律曲線に沿った平均律)

[各音律の特長]

平均律	ピアノの調律法として、最もポピュラーなもので、どのように移調しても和音の響きが変わらないという特長があります。
純正律	3度と5度のうなりをなくした調律法で、合唱音楽では、現在でも随所にこの音律に基づいた演奏が行なわれています。
ピタゴラス音律	5度のうなりをなくした調律法で、和音よりも、メロディーを演奏すると非常に美しいのが特長です。
中全音律	3度のうなりをなくした調律法で、純正律の特定の5度が著しく不協和であることを改良したもので、平均律よりも和音が美しく響きます。
ヴェルクマイスター第Ⅲ法 キルンベルガー第Ⅲ法	調号の少ない調は、和音の美しい中全音律に近く、調号が増えるにしたがって、緊張感が高く、メロディーが美しいピタゴラス音律に近づけていくもので、古典音楽の作曲家の意図した「調性の性格」を反映させることのできる調律法です。

★電源オン時は平均律(ピアノの調律曲線に沿った平均律)になっています。

★調の設定は、音律が設定されている場合、このモードの状態で下図の鍵盤を使って行ないます。
電源をオンにして初めて音律設定を行なったとき、調は各音律のC調になります。
この調を、例えば、Dに変えたいときは、下図のDの鍵盤を押してください。

ステップ4　音律の設定が終わったら、VIBRAPHONE ボタンを押し、「設定モード」から出ます。(9ページ参照)
引き続き、他の設定モードに移ることもできます。

4

MIDI機能の使い方

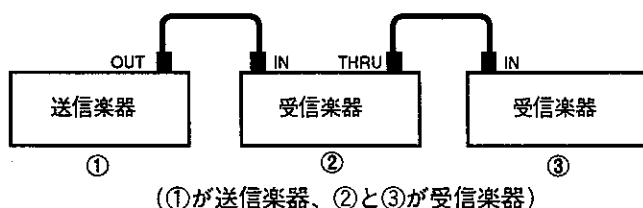
1. MIDIの考え方

MIDI機能の設定をする前に、MIDIについて簡単に説明します。
MIDI(ミディ)とは、Musical Instrument Digital Interfaceの略称で、シンセサイザーやドラムマシンなどの電子、電気楽器間を接続するための世界統一規格です。

MIDI端子には、IN、OUT、THRUの3つの種類があります。いずれもMIDI専用ケーブルで接続します。

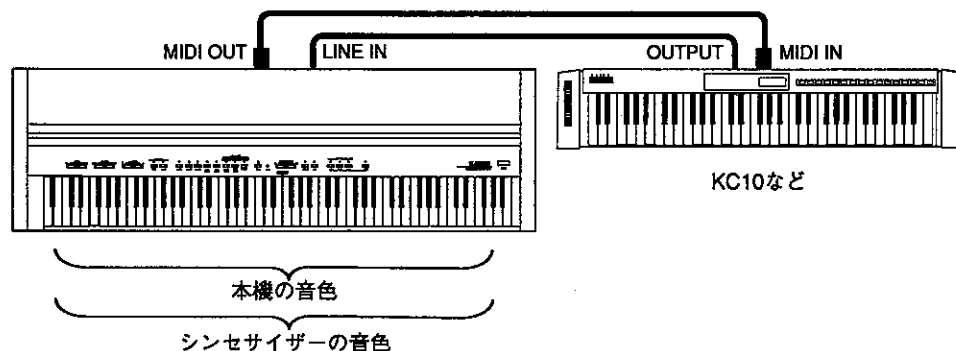
IN　：鍵盤情報や音色情報などを受信します。
OUT　：鍵盤情報や音色情報などを送信します。
THRU　：受信した情報をそのまま他の楽器に転送します。

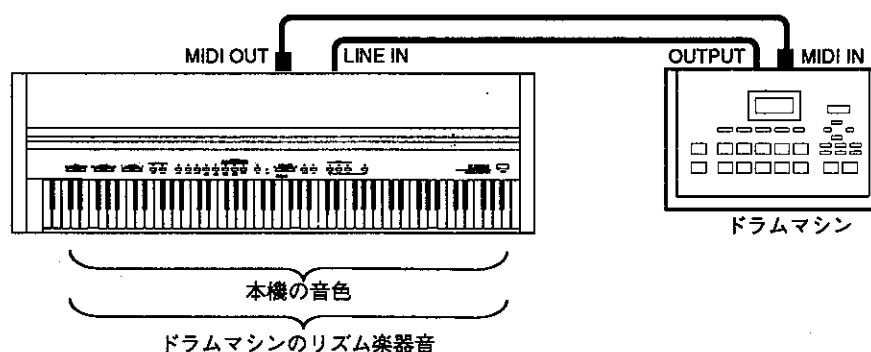
MIDIには、チャンネルというものがあります。チャンネルには受信チャンネルと送信チャンネルの２種類があり、通常の場合、MIDI機能を持った楽器はこの両方を備えています。
受信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器から情報を受信する場合のチャンネルで、送信チャンネルとはある楽器が他の楽器へ情報を送信する場合のチャンネルです。

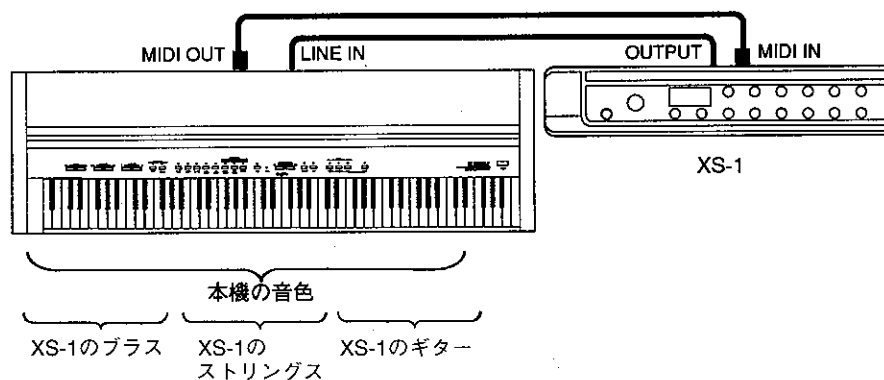
例えば３台の楽器を次のように接続して演奏するとします。

①の送信楽器は送信チャンネルと共に鍵盤情報等を②、③の受信楽器に送ります。②、③の受信楽器にはこの情報が送られてきます。基本的には②、③の受信楽器の受信チャンネルと①の送信楽器の送信チャンネルが一致していれば、送られてきた情報を受け取りますが、一致していなければ受け取らないということになります。
チャンネル番号は、送信、受信とも1～16までの番号を使用することができます。

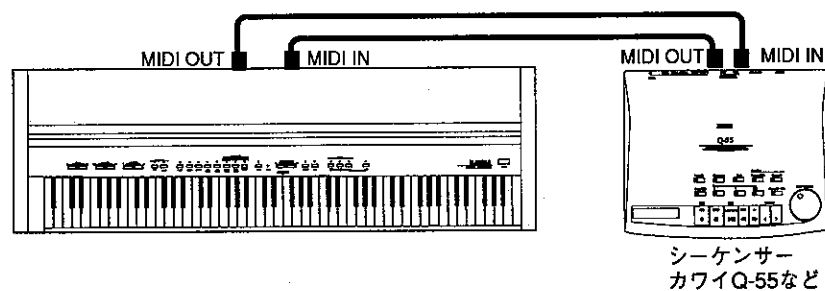
2.MIDIの使用例

A. 他のMIDI対応キーボードとのアンサンブル

（カワイ・デジタル・シンセサイザーKC10などとの使用例）

図のように接続すると、電子ピアノで弾いた情報（どの鍵盤をどの程度の強さで弾いたか）がそのままシンセサイザーに送信されます。さらにシンセサイザーのOUTPUTと本機のLINE INを接続することにより、電子ピアノの音にシンセサイザーの音を重ねて出すことができます。
音色は、別々に設定できますので、電子ピアノのピアノ音にシンセサイザーのストリングスの音を重ねて、厚みのある音にするなど、工夫しだいでいろいろなアンサンブルをつくりだすこともできます。
また、MIDI INとMIDI OUTの接続を逆にすればシンセサイザーの方を弾いて電子ピアノの音を出すこともできます。

B. ドラムマシンとのプレイ

図のように接続すると、ドラムマシンのリズムに合わせた演奏ができるだけでなく、電子ピアノの鍵盤をたたくことにより、ドラムマシンのリズム楽器音も鳴らすことができます。

C. シンセサイザー音源モジュールXS-1とのプレイ

図のように接続すれば、前例Aのような音の重ね合わせのほかに、鍵盤上で多数の音色を、分割して演奏することができます。
この場合、XS-1はマルチモードで３音色のマルチ音色スプリットにセッティングします。XS-1の取扱いについては、XS-1の取扱説明書をお読みください。
なお、カワイ音源モジュールK4rでも同様のことができます。

D. シーケンサーを使っての録音／再生

図のように接続すれば、電子ピアノの演奏をシーケンサーに録音し、それを再生することができ、電子ピアノの練習に役立てることができます。
また、電子ピアノの設定をマルチティンバーオン（21ページ参照）にして録音／再生を行なえば、ピアノ、ハープシコード、ビブラフォンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむことができます。シーケンサーに、カワイQ-55を使用した場合は、Q-55側のボタンひとつで簡単にアンサンブル録音／再生が可能です。シーケンサーの取扱いについてはシーケンサーの取扱説明書をお読みください。

3. 本機のMIDI機能

本機のMIDI機能は次のようになっています。

①鍵盤情報の送信・受信
電子ピアノを弾いてシンセサイザー等から音を出したり、その逆が可能です。

② 送信・受信チャンネルの設定
送信・受信チャンネルを1～16の範囲で設定することができます。（17ページ参照）

③プログラム（音色）ナンバーの送信
電子ピアノとMIDIで接続したシンセサイザー等の音色（プログラムされた音色）を電子ピアノ側の操作で変えたり、その逆が可能です。（18ページ参照）

④ ペダル情報の送信・受信
ダンパーペダル、ソフト・ペダルのオン／オフ情報の送信・受信ができます。また、ソステヌート・ペダルの場合は、オン／オフの送信ができます。

⑤ ボリューム情報の受信
シンセサイザー等を弾いて、電子ピアノの音を出しているとき、シンセサイザーで電子ピアノの音量をコントロールすることができます。

⑥ マルチ・ティンバーの設定
電子ピアノが受信楽器になっているとき、複数の異なるチャンネルで鍵盤情報を受信して、各々別の音を出すことができます。（21ページ参照）

⑦ エクスクルーシブ・データの送信・受信
フロントパネルの操作や設定モードで変更した設定を、エクスクルーシブ・データとして送信・受信ができます。

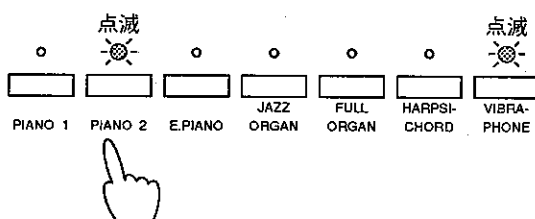
★本機のMIDI機能についての詳細は、「MIDIインプリメンテーションチャート」（巻末）をご覧ください。

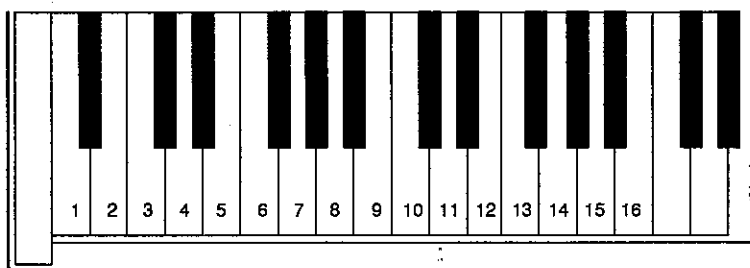
4. MIDI機能の使い方

A. MIDI送信・受信チャンネルの設定

接続されたMIDI楽器といろいろな情報をやりとりするために楽器同志のチャンネルを合わせておくことが必要です。

ステップ1 「設定モード」に入ります。（8ページ参照）

ステップ2 PIANO2 のボタンを押します。
PIANO1の点滅がPIANO2の点滅に変わり、MIDIチャンネルおよびマルチ・ティンバーモード（21ページ参照）の設定モードであることを示します。

★この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ3 設定したいチャンネルの鍵盤を押します。
MIDIチャンネルの設定は左端から16個の白鍵を使用します。

設定したいナンバーの鍵盤を押すと、送信チャンネル、受信チャンネルとも、そのナンバーに設定されます。

ステップ4 MIDIチャンネルの設定が終わったら、VIBRAPHONE ボタンを押して「設定モード」から出ます。（9ページ参照）
引き続き、他の設定モードに移ることもできます。

★本機は電源オン時には、1〜16のすべてのチャンネルの情報を受信できる状態になっています。これをオムニ・オンと呼びます。チャンネル設定を行なうとオムニ・オフとなり、設定したチャンネルのみで受信するようになります。

B. プログラム（音色）ナンバー送信の設定

① 音色セレクト・ボタンによるプログラム・ナンバーの送信 パネル操作の送信

本機では、通常の演奏中に7個の音色セレクト・ボタンを切り替えることにより、下表のような0～6までのプログラム・ナンバーを送信できるようになっています。

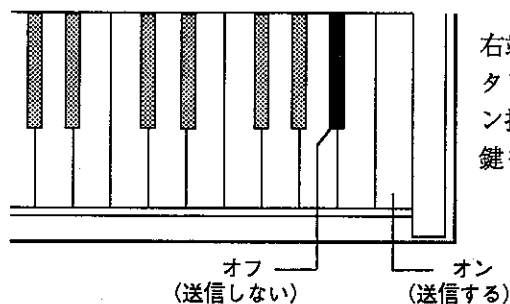
音色セレクト・ボタン	プログラム・チェンジ・ナンバー
PIANO 1	0
PIANO 2	1
E. PIANO	2
JAZZ ORGAN	3
FULL ORGAN	4
HARPSICHORD	5
VIBRAPHONE	6

また音色セレクト・ボタン以外にも、タッチ・カーブ、エフェクト（リバーブ）のボタン操作をMIDIエクスクルーシブ・データとして送信することができます。

この音色セレクト・ボタンによるプログラム・ナンバーの送信やパネル操作の送信は、次の方法により送信するかしないかを設定することができます。

ステップ1 設定モードに入ります。（8ページ参照）
VIBRAPHONEとPIANO1のランプが点滅します。
PIANO1の点滅はプログラム・ナンバー送信の設定モードを示しますので、そのまま次のステップに進みます。

★この状態では鍵盤を押しても音は出ません。

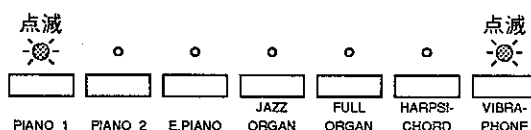
ステップ2 右端の黒鍵（＝オフ）または、白鍵（＝オン）を押します。

右端の黒鍵を押すと、音色セレクト・ボタンによるプログラム・ナンバーやボタン操作の送信をしません。逆に右端の白鍵を押すと送信します。

ステップ3 設定が終わったら、VIBRAPHONE ボタンを押して、「設定モード」から出ます。
引き続き、他の設定モードに移ることもできます。

★電源オン時は、音色セレクト・ボタンによるプログラム・ナンバーの送信は自動的にオンにセットされます。

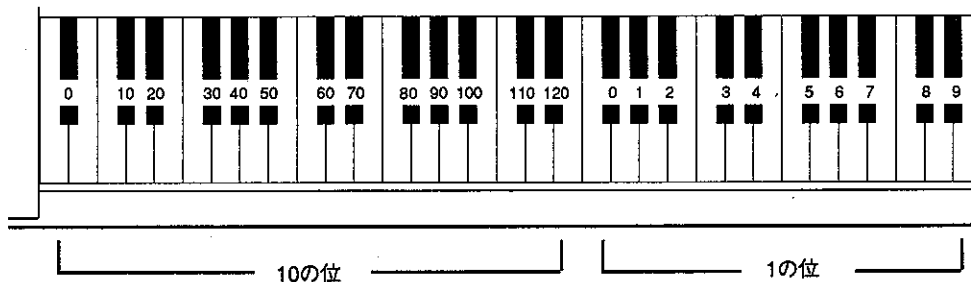
② 黒鍵を使用した送信

本機では、音色セレクト・ボタンによる送信の他に、黒鍵を使って0〜127までのプログラム・ナンバーを送信することができます。

ステップ1 「設定モード」に入ります。（8ページ参照）

★その他の設定モード（VIBRAPHONEと他のランプが点滅）に続いて設定する場合は、PIANO1のボタンを押してください。

ステップ2 鍵盤を押してプログラム・ナンバーを送信します。
プログラム・ナンバーの送信には、黒鍵を使用します。左端から13個の黒鍵で10の位（0〜120）、次の10個で1の位（0〜9）をセットできます。10の位を押した後1の位を押すことにより、プログラム・ナンバーを送信します。

★10の位が共通なプログラム・ナンバーを送信する場合は、10の位を押し直す必要は無く、1の位を押し直すだけでプログラム・ナンバーを送信することができます。

★設定モードに入ったときは、10の位は0にセットされています。

[プログラム・ナンバー送信の例]

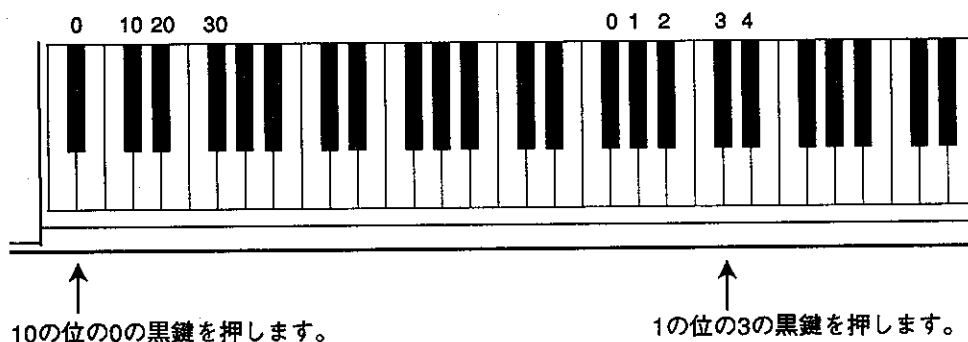
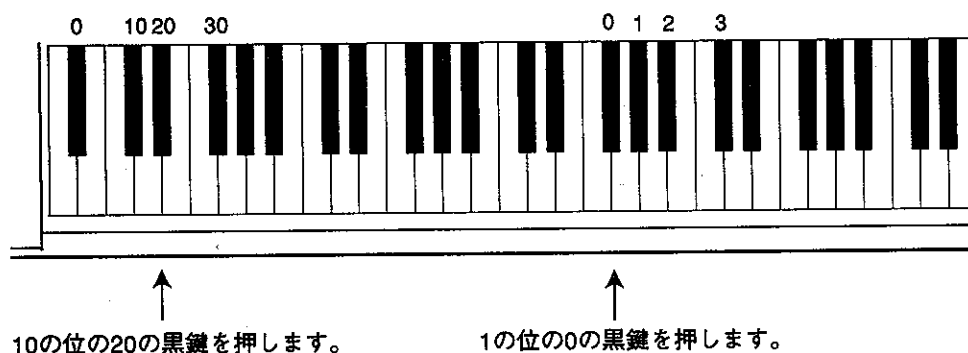
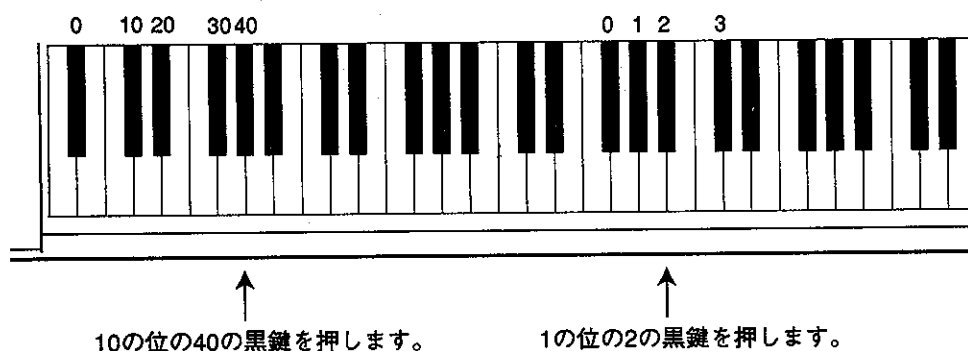
●プログラムNO. ：3

10の位の0の黒鍵を押します。　　1の位の3の黒鍵を押します。

●プログラムNO. ：20

10の位の20の黒鍵を押します。　　1の位の0の黒鍵を押します。

●プログラムNO. ：42

10の位の40の黒鍵を押します。　　1の位の2の黒鍵を押します。

ステップ3 VIBRAPHONE ボタンを押し、「設定モード」から出ます。
引き続き、他の設定モードに移ることもできます。

★他のMIDI楽器からプログラム・ナンバーを受信したときには、プログラム・ナンバー送信のオン／オフに関係なく、受信したプログラム・ナンバーに対応して18ページの表の音色セレクト・ボタンが点灯します。

C.マルチ・ティンバー・モードのオン／オフの設定

通常は、前述の方法で設定されたMIDIチャンネル（1～16のどれか1つ）で情報を送信・受信しますが、マルチ・ティンバー・モードをオンすることにより、複数のMIDIチャンネルを受信して各々のチャンネルに対応した異なる音色を同時に出すことができます。
この機能により、外部にQ-55などのシーケンサーを使って、本機1台で「複数の音色（マルチ・ティンバー）」によるアンサンブル演奏が可能です。
本機には、２種類のマルチ、ティンバー・モードを装備しています。マルチ・ティンバー１は、受信したMIDIチャンネルに対応して下記のA表の音色が鳴ります。マルチ、ティンバー２は本機の他に別の音源モジュール等を使うMIDI上級者の人向けのモードです。各チャンネル毎に発音するかしないかを選択できます（22ページ参照）。また各チャンネル毎にプログラム・チェンジ情報を受信することによって下記のB表に対応した音色変更をすることができます。マルチ・ティンバー・モード２では、最初2～10チャンネルの発音はオフになっています。

1～7チャンネルにはパネル上の各音色が割り当てられます。

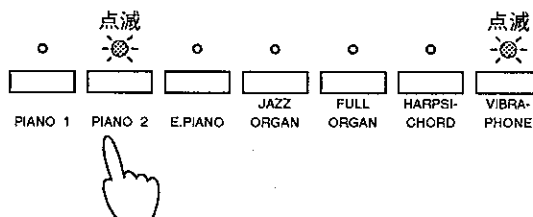
A表

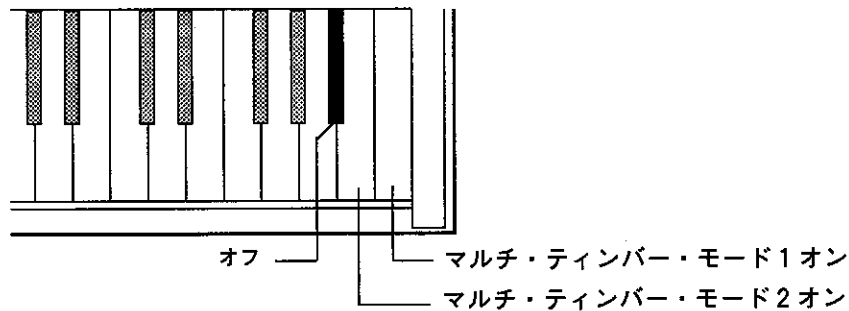
チャンネル	音色	チャンネル	音色	チャンネル	音色
1	PIANO 1	7	VIBRAPHONE	13	—
2	PIANO 2	8	—	14	WOOD BASS
3	E. PIANO	9	—	15	WOOD BASS
4	JAZZ ORGAN	10	—	16	WOOD BASS
5	FULL ORGAN	11	—		
6	HARPSICHORD	12	—		

B表

プログラム・チェンジ・ナンバー	音色	プログラム・チェンジ・ナンバー	音色
0	PIANO 1	6	VIBRAPHONE
1	PIANO 2	7	WOOD BASS
2	E. PIANO	8~127	PIANO 1
3	JAZZ ORGAN		
4	FULL ORGAN		
5	HARPSICHORD		

ステップ1　「設定モード」に入ります。（8ページ参照）

ステップ2　PIANO2 のボタンを押します。
PIANO1の点滅がPIANO2の点滅に変わり、マルチ・ティンバー・モードおよびMIDIチャンネル（17ページ参照）の設定モードであることを示します。

★この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ3　**右端の黒鍵と白鍵でマルチ・ティンバー・モードのオン／オフを設定します。**
右端の白鍵を押すと、マルチ・ティンバー・モード１がオン、右から２番目の白鍵を押すとマルチ・ティンバー・モード２がオン、黒鍵を押すとオフになります。

マルチ・ティンバー・モードがオフのときに、MIDI情報を受信すると、そのとき選ばれていた音色セレクト・ボタンの音色が鳴ります。
マルチ・ティンバー・モード１がオンのときは、どの音色セレクト・ボタンが選ばれていても受信したMIDIチャンネルに対応して前ページの音色が無条件に鳴ります。マルチ・ティンバー・モード２がオンに設定されると、受信チャンネルごとに発音のオン／オフを設定することができます。

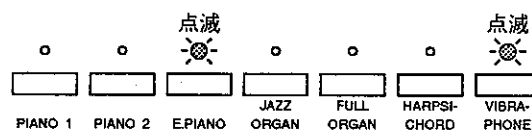
★電源オン時、マルチ・ティンバー・モードはオフに設定されます。

ステップ4　マルチ・ティンバー・モードの設定が終わったら、VIBRAPHONE のボタンを押して「設定モード」から出ます。(9ページ参照)
引き続き、他の設定モードに移ることもできます。

D. マルチ・ティンバー・モード２の各チャンネルの発音のオン／オフ

マルチ・ティンバー・モード２がオンに設定されていると、次の操作で各チャンネルの発音のオン／オフが設定できます。

ステップ1　「設定モード」に入ります。(8ページ参照)

ステップ2　**E.PIANO のボタンを押します。**
PIANO1の点滅がE. PIANOの点滅に変わり、マルチ・ティンバー・モード２の各チャンネルの発音のオン／オフおよびローカル・コントロール・オン／オフ（23ページ参照）の設定モードであることを示します。

ステップ3　鍵盤左側の白鍵または黒鍵を押して各チャンネルの発音のオン／オフを設定します。
オンの設定は左端から16個の白鍵を使用します。
オフの設定は左端から16個の黒鍵を使用します。

ステップ4　VIBRAPHONE のボタンを押して「設定モード」から出ます。（9ページ参照）

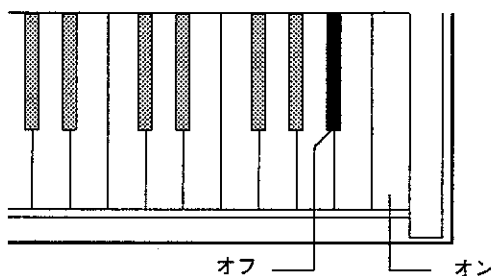
E. ローカル・コントロールのオン／オフ

このモードは、本体の鍵盤を弾いて音を出すか、出さないかを設定するモードで、ローカル・コントロール・オン／オフ・モードと呼びます。
ローカル・コントロールがオンの時は、通常通り鍵盤を弾けば本体の音が鳴ります。一方、ローカル・コントロールがオフの時は、鍵盤を弾いても音は鳴らずにMIDI情報を受信したときのみ音が鳴ります。

ステップ1　「設定モード」（8ページ参照）に入ります。

ステップ2　E.PIANO のボタンを押します。
PIANO 1 の点滅が E. PIANO の点滅に変わります。

★この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

右端の黒鍵または白鍵を押して、ローカル・コントロールのオン／オフを設定します。

右端の白鍵を押すと、ローカル・コントロールがオン、黒鍵を押すとオフになります。

★電源オン時、ローカル・コントロールはオンに設定されます。

ステップ3 鍵盤左側の白鍵または黒鍵を押して各チャンネルの発音のオン／オフを設定します。
オンの設定は左端から16個の白鍵を使用します。
オフの設定は左端から16個の黒鍵を使用します。

ステップ4 VIBRAPHONE のボタンを押して「設定モード」から出ます。（9ページ参照）

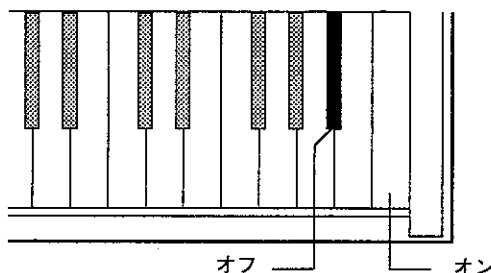
E. ローカル・コントロールのオン／オフ

このモードは、本体の鍵盤を弾いて音を出すか、出さないかを設定するモードで、ローカル・コントロール・オン／オフ・モードと呼びます。
ローカル・コントロールがオンの時は、通常通り鍵盤を弾けば本体の音が鳴ります。一方、ローカル・コントロールがオフの時は、鍵盤を弾いても音は鳴らずにMIDI情報を受信したときのみ音が鳴ります。

ステップ1 「設定モード」（8ページ参照）に入ります。

ステップ2 E.PIANO のボタンを押します。
PIANO 1 の点滅が E. PIANO の点滅に変わります。

★この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

右端の黒鍵または白鍵を押して、ローカル・コントロールのオン／オフを設定します。

右端の白鍵を押すと、ローカル・コントロールがオン、黒鍵を押すとオフになります。

★電源オン時、ローカル・コントロールはオンに設定されます。

ステップ3 VIBRAPHONE のボタンを押して「設定モード」から出ます。（9ページ参照）

14〜16チャンネルに割り当てられている音色(WOOD BASS)を、他のMIDI機器を使わず本機の鍵盤で弾きたい場合は、次の操作を行ないます。

ステップ1 「設定モード」（8ページ参照）に入り、マルチ・ティンバー・モード1（21ページ）をオンにします。

ステップ2 前ページのステップ2の操作を行ないローカル・コントロールをオフに設定します。

ステップ3 PIANO2 のボタンを押し、チャンネル設定モードに入り、MIDIチャンネルを14〜16のどれかに設定します。（17ページ参照）

ステップ4 VIBRAPHONE のボタンを押して「設定モード」から出ます。（9ページ参照）

ステップ5 本体の背面にあるMIDI IN端子とMIDI OUT端子を一本のMIDIケーブルで接続します。

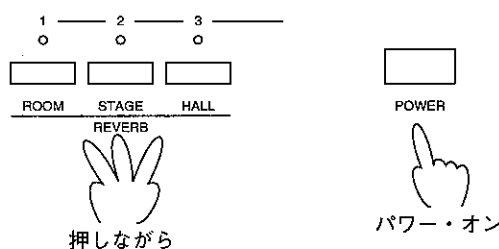
> ★通常の演奏の場合は、このようなMIDIケーブルの接続はしないようにしてください。

以上の操作により、14〜16チャンネルに割り当てられている音色(WOOD BASS)を鍵盤で弾くことができます。

> ★ステップ2でローカル・コントロールをオンにしておくと、パネル上の音色セレクト・ボタンで選んだ音色と重ねて演奏することができます。

F. ワンタッチ・ローカル・コントロール・オフ

以下の操作を行なうと、ワンタッチでローカル・コントロールがオフに設定されます。

ステップ1 リバーブの3つのボタンを押しながら電源スイッチをオンにします。

ローカル・コントロールがオフに設定されました。

■主な仕様

鍵　　盤	木製88鍵／New AWA 鍵盤
発音数	15
音　　色	ピアノ1・2、エレクトリック・ピアノ、ジャズ・オルガン、 フル・オルガン、ハープシコード、ビブラフォン
効　　果	リバーブ（ルーム、ステージ、ホール）
音　　律	平均律（2）、純正律、ピタゴラス音律、中全音律 ヴェルクマイスター第III法、キルンベルガー第III法
その他の機能	ボリューム、トランスポーズ、チューン、 タッチカーブ選択（ライト、ノーマル、ヘビー）
ペダル	ダンパー、ソフト、ソステヌート
外部端子	ヘッドホン、ペダル、AC OUTLET、MIDI (IN、OUT、THRU) LINE IN (L/MONO、R), LINE OUT (L/MONO、R)
出　　力	20W　x　2
スピーカー	13cmx2（エンクロージャー付）、5cmx2
キーカバー	スライド式
定格電圧	ＡＣ１００Ｖ、５０／６０Ｈｚ
消費電力	50W
仕上げ	ブライトコスモブラック
寸　　法 (W x D x H)cm	140 x 49 x 82（スタンド含む）
重　　量	63Kg（スタンド含む）
オプション	椅子、ヘッドホン

[KAWAI DIGITAL PIANO]

Date: Nov. 1992
Version: 1.0

Model SE320 MIDI インプリメンテーションチャート

ファンクション....		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1 - 16	1 1 - 16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	3 × ***********	1 1.3** ×	**電源オン時オムニ・オン。MIDIチャンネル設定操作によりオムニ・オフ。
ノート ナンバー	音域	21 - 108* ***********	0 -127 15 - 113	
ベロシティー	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH V=1-127 × 9nH v=0	○ ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー		×	×	
コントロール チェンジ	7 64 66 67	× ○（右ペダル） ○（中ペダル） ○（左ペダル）	○ ○ × ○	ボリューム ダンパー ソステヌート ソフトペダル
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○（0 - 127） ***********	○（0 - 127）***	
エクスクルーシブ		○	○	送信選択可能
コモン	:ソングポジション :ソングセレクト :チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	:クロック :コマンド	× ×	× ×	
その他	:ローカルON/OFF :オール・ノート・オフ :アクティブセンシング :リセット	× ○ ○ ×	○ ○ ○ ×	
備考		*15-113 トランスポーズによって変化する。 *** 7-127=0（マルチティンバーOFF／1時） 8-127=0（マルチティンバー2時）		

モード1： オムニ・オン、ポリ　　モード2： オムニ・オン、モノ　　○：あり
モード3： オムニ・オフ、ポリ　　モード4： オムニ・オフ、モノ　　×：なし